

子どもの権利条約採択 30 周年企画展

保育のまち すみだ

子育てを支えて1世紀

令和元年 12 月 14 日(土) - 令和 2 年 2 月 11 日(火)・(祝)

会場：すみだ郷土文化資料館 3階企画展示室

開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：月曜日・第4火曜日(それぞれ祝日の場合は翌日)
12月29日～令和2年1月2日

入館料：個人100円・団体(20人以上)80円

*中学生以下と、身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・
精神障害者保健福祉手帳をお持ち方は無料

東京都墨田区向島 2 - 3 - 5

Tel.03 (5619) 7034 fax 03 (3625) 3431

すみだ郷土文化資料館

保育のまち すみだ

明治期のすみだには、日本の近代化に合わせるように多くの工場が置かれ、女性も労働者として多く働いていました。工場労働者同士の結婚で共働きとなり、子どもが生まれると託児が必要になりました。一部の工場には、託児所が設けられましたが、現在より労働時間も長い上に、残業もあり、工場労働者の子どもの多くは、近所の人に預けられたり、親が帰るまで家に置かれたりしていました。周囲の環境も子どもには危険が多く、成長のために恵まれた環境とは言い難いものがありました。

そこで明治時代後期から、多くの託児・保育活動が民間を中心に進められてきました。現在も活動している興望館保育園はその先駆けの1つです。また公立保育園も早くに設置されました。区立江東橋保育園は、大正10(1921)年に当時の東京市の保育園として始まり、関東大震災での焼失後には、コンクリートの母子寮との複合施設として再建されました。さらに関東大震災後には、ベタニヤホーム(菊川保育園)、東大の学生の社会活動である東大セツルメント託児所、組合活動として立ち上げられた光の園保育学校などが開設されました。昭和に入ると、無産者保育所という労働者のための保育園が作られ、厚生館などが活動を始めます。しかし、昭和20(1945)年3月10日の空襲により、一部を除いて焼失し、園児や家族、職員も犠牲になりました。

戦後、それぞれの保育園は再建への努力を続け、公立の江東橋保育園は他地域の見本園として多くの視察を受けました。当時、園長を務めた鈴木とくは、戦前から東大セツルメント託児部や愛育隣保館での保育に従事し、すみだの保育に長く尽力した人物です。後には都の保母学院の講師として後進の育成にも携わりました。

本展では、1世紀を超える区内の保育園の歩みをご紹介します。

子育てを支えて1世紀

展示関連講演会のご案内

愛育隣保館の保育事業と疎開保育

日 付：12月21日(土)
 時 間：午後1時～3時
 講 師：西脇二葉氏(東京福祉大学講師)
 会 場：すみだ郷土文化資料館5階研修室
 受講料：350円(入館料込み)
 申 込：お電話ですみだ郷土文化資料館まで



案内図および交通機関



- ・東武伊勢崎線
「とうきょうスカイツリー」駅より
徒歩約7分
- ・都営浅草線
「本所吾妻橋」駅より徒歩約8分
- ・区内循環バス北西部ルート
「見番通り入口」停留所より徒歩約5分

すみだ郷土文化資料館
 墨田区向島2-3-5

TEL 03 (5619) 7034 fax 03 (3625) 3431